



# 深い泉

@幸せな贈り物

## 残す遺産

その日はたしかに決まっています。

ヘブル人への手紙9章27節の聖書みことばに

「そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、」とされています。

その日には、世の中の何も役立たなくて、持っていくこともできません。

多くのことを残しても、それは問題だけ生じさせます。

とても大切にしてきたことを何も持っていくことができません。

しかし、必ず人生の足跡は残ります。

それで、昔の人は

「虎は死して皮を留め人は死して名を残す」と言いました。

最近、「ある医師の最後の遺言」という文章が心に穏やかな感動を残してくれました。

ある村にイエス様をよく信じる有名な医師が住んでいました。

村の人は病気になったら、みんな彼を訪ねて行って治療してもらいました。

彼は患者の顔と足取りだけ見ても、どこが病気かを知って処方をする名医でした。

そのような彼が年をとって亡くなるようになりました。

村の人と教会の牧師は臨終を前にして医師を訪ねて行って、彼の臨終を見守りました。

死を前にして彼が人々に話しました。

「私よりはるかに立派な三人の医師を紹介します。その医師の名前は『食べ物と睡眠と運動』です。食べ物は胃の75%だけ満たして、絶対に食べすぎないでください。12時以前に床に入って、日が昇れば起きてください。そして、熱心に歩いてみれば、かなりの病気はよくなることができます」

話をした医師が苦しくなったのか、しばらく言葉を止めました。

そして、また言葉を続けました。

「そして、食べ物と睡眠と運動は、次の3つの薬とともに  
服用するときに効果があります」

人々は医師の話にさらに耳を傾けました。

「肉体とともにたましいの健康のために必ず必要なのは『みことば黙想と祈りと愛』です。  
肉体だけ健康なのは半分健康です。たましいと肉体が等しく健康な人になってください。

みことば黙想の薬は、毎日一定の時間に一生、着実に服用しなければなりません。

祈りの薬は、副作用がない万能薬です。

急な事がある時はたくさん服用してもかまいません。

愛の薬は非常用の常備薬です。

この薬は随時、服用してください。最も重要な薬です」

医師は自分が生きながら悟った最も重要なことを知らせた後、平安な姿で  
静かに目を閉じました。

私たちは、お金もかからないこの薬をどれくらい摂取しているのでしょうか。

その文章はそれで終わっていましたが、

医師として、人間の健康のために最も大切な遺産を残したという気がしました。

人間は、どのように生きたのか、その人生の跡を残して

その人生の跡は、誰かによって評価を受けるようになっています。

アメリカの大統領であるリンカーン Abraham Lincoln のように、むしろ亡くなった後

さらに多くの人に影響を与える美しい人生の足跡もあります。

一回の人生を生きながら、私たちが残さなければならないまことの遺産は何でしょうか。

**最高の遺産は、永遠に持続することを残すことです。そのはじまりは、このようです。**

まことの祝福が何か本当に分かったら、私たちは子孫に永遠な祝福を残してあげることができます。

人間のみことの祝福は何でしょうか。

仏教の福は三災すなわち火災、水災、風災と生老病死による苦しみである八苦を避けることを言います。  
そして、儒教の福は受ける福で、現世でなければならぬ長寿、富貴、健康、得、自然死の五福を言います。

しかし、神様が人間にくださった祝福は神様とともにいることです。

魚が水の中で生きて、木が根を地中におろして生きていくときにいのちが維持できるるように、

人間は神様とともにいるときだけ、まことの幸せとまことのいのちを味わうことができます。

この世の中のどんな被造物も、神様とともにいる存在として創造されたことはありません。

ですから、神様とともにいる祝福を味わうことが人間の最高の幸せです。

その道を聖書は福音と言っています。

福音は、人間がとうてい解決できない3つの根本問題

①原罪の問題 ②呪いの問題 ③地獄とサタンの問題を解決したことです。

この福音を信じて救われた者に、次のような祝福を約束されました。

「わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。」創世記 12:2

一回の人生を生きながら、家族と家系に残していく最高の遺産があるならば、

3つの人生の根本問題を解決する福音を残してあげることです。

**「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」** (使徒 16:31)



# 信仰によって...

「イエス・キリストへの信仰とは、何ですか」答え「イエス・キリストへの信仰は、救いの恵みです。それによって私たちは、救いのために、福音において提供されているままにキリストのみを受け入れ、彼にのみ寄り頼むのです。」とされています。イエス・キリストによって救いの恵みを受けるということです。

今、世の中には多くの宗教と多様な理論が乱舞しています。宗教は何でもよく信じれば良いから、あえてイエス・キリストを必ず強調する必要がないという多元論もあります。さらに一歩進んで、聖書で語っている奇跡は勘違いによって記録されたことであって、実際にそのようなことはないと言主張する神学もあります。

それなら、聖書ははたして何を語っているのでしょうか。

①人間が根本的にどんな存在なのか、②人間になぜ度々問題がくるのか、③その問題の原因は何か、④どのようにこの問題を解決しなければならないのか、⑤救われればどうなるかを知らせています。一言で話せば、人間の根本問題とすべての問題の解答であるイエス・キリストの福音が何であり、救いが何かを語っているのです。

人間は、本来、神様とともにいて幸せを味わうように創造されました。

ところが、ある日、目に見えない霊的な存在であるサタンの策略と誘惑によって、神様との約束を破って、神様を離れるようになりました。それ以後、人間には理解することも、防ぐこともできない不幸がずっと訪ねてくるようになりました。ある人には霊的な問題で、ある人には偶像崇拜の問題で、精神問題で、肉体問題で、家庭と次世代の問題で、来世問題で絶え間ない苦痛が続いています。苦痛の中に陥ってしまった人間は、脱出口を探して偶像崇拜、学問、信念、宗教へとさまようようになりました。しかし、人間の根本問題は、このような方法では解決できません。なぜなら、神様を離れた問題、罪と呪いに陥った問題、サタンに捕われた問題は、人間自らでは解決できないためです。それで、神様が「キリスト」という道を開いてくださいました。

キリストはこの地に來られて、人間の代わりに十字架で死んで復活されることによって神様に会う道になってくださり、罪と呪いから解放される道と、サタンの手から解放されて神様の子どもになる道を開いてくださいました。このキリストの使命を果たした方が、「イエス」です。誰でもこのイエスをキリストとして、私の人生のすべての問題の解決者として心で信じて口と告白すれば、神様の子どもになります。その瞬間から、神様は永遠にともにおられ、神様の子どもの身分と権威と祝福を味わうようになるのです。信仰の選択は瞬間ですが、その恵みと祝福は永遠なのです。

「しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。」ヨハネ 20:31

神様の子どもになる

## 受け入れの祈り

愛の父なる神様。私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してください。今、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもの

## 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



# 11月にまく種

秋は刈り入れの季節だ。真夏の焼け付くような日差しが過ぎて、暴風雨に耐えた実を収穫する農夫の喜びは何とも比較できないだろう。刈り入れの喜びで、農夫は簡単だと思えるだろうが、しかし、暇だろうと見える11月に農夫の手はより一層忙しい。

以前に春窮期といって、秋に刈り入れした米がなくなって、春に食べ物がなくて苦労した時があった。麦を刈り入れてこそ食事ができる時期だったので、春の端境期とも呼んだ。今日に食べる糧がなくて、食べ物を借りで付ける人々の困難が、当時にはしばしば見られる情景だった。そのような危機を抜け出して、必要な時に糧を盛大に得ようとするなら11月に手をこまめに働かせなければならない。刈り入れた畑にうねを作って、麦をまいて種がまかれたところを土で覆って、あとは時間を待たなければならない。

冬の寒い日、霜のために浮き上がった麦の根を土地に密着させて、無駄に成長することを防ぐために初春に必ず麦踏みをする。こういう苦労を経てこそ、食卓に上がる麦を刈り入れできるのだ。したがって、11月は刈り入れ時期だが、また種をまく時だ。少し大変だと怠けて種をまかなければ、最も必要な時間に窮乏した生活を避けられなくなる。「人生にまことの休息はいつ頃あるようになるだろうか?」と疲れてしまった人は待つ。これは、春に種まきしないで秋に刈り入れを待つ人と同じで、11月に種をまかないで麦を刈り入れようとする人と同じだ。人生は種をまく生活を送る時だ。今、何をまくのかによって、その人の刈り入れの畑を見るようになる。

人々はたやすくできることで自信を持って、それを通してすべてを得ようとする欲求がある。しかし、それはしん気楼と同じで、手で捕えられることもできず、まことの喜びを与えるものでもないのに、その価値を逃さないようにと思う。しかし、発見しなければならぬ重要な事実、短い人生で永遠のためのいのちの種をまく人だけが、まことの休息を得るようになるということだ。肉体のための率直な努力は見つけることができる最高の価値だが、永遠のいのちのための価値ではないのだ。それで、人間には福音が必要なのだ。

得ることができることは必ず存在する。その価値は難しいことでないのにもかかわらず得られない。理由は、種をまかないで結果を見つけようとするためだ。福音はいのちの種だ。この種の中に人間が得たいすべての価値と満たしたいすべての期待が全部入っている。肉体の人生を収穫する刈り入れがあるとすれば、その苦労をほめたい。

11月は麦の種をまく時だ。すなわち、春の実を植える時だ。探してみなかったけれど見つけれられるのが福音で、聞きたくなかったのに聞こえてくるのがまた福音だ。福音は生活の証拠で、私たちのそばにきて留まっている。信じないで不安だった人は、信仰の種を、待つことができなくて恐れている人々は希望の種を、分けることができなくて心が痛い人々には愛の種を植える時だ。

知らなかったのがしてしまった救いを回復したい人は、真心から福音を受ければ良い。それが種を植えることで、永遠のいのちを収穫する事実になる。浪費を植えれば貧困がくる。貯蓄を実践すれば富がくる。福音を植えれば救いがくる。

11月の祝福よ!

チョン・ヒョングク (福音コラムニスト)